

ことばの変化とスタイル・マニュアル

—メディアにおける差別表現—

Language Change and Style Manual

—Biased Language in the Media—

金 野 伸 雄

Nobuo KANENO

Due to the effect of what is commonly called Political Correctness or PC, we seem to be in an age of continual reexamination and updating conventional descriptive terminology which tends to offend individual or group sensitivities. The aim of this paper is to examine how language-policy makers in the media deal with biased-language in contemporary English. In this paper a classification of biased language has been made into four categories, (1) race, ethnicity, citizenship and nationality (2) disabilities and medical conditions (3) sexual orientation (4) age, excluding gender-biased language, which has been examined in another paper of my own. The corpus has been limited to four editions of stylebooks published by The Associated Press, The United Press International, The New York Times and The Washington Post.

Some of the general principles found out in these stylebooks are :

1. Writers and editors should first determine whether a particular description is pertinent to the story being told.
2. If a particular description is pertinent, they should try to determine the currently preferred term for the person or group out of a number of new terms.
3. Writers and editors should also try to determine whether the term has been used by the specific group or organization in a nonpejorative sense.
4. Writers and editors should be cautious not to offend a person or group while they also have to try to avoid euphemistic language that may itself reveal bias.

1. はじめに

こんにち、英語の様々な表現の中で議論されることが最も多いものとして、いわゆる PC 言語 (politically correct language) ¹ をあげることができよう。これは近年、書き手の中に認められる偏狭なものの方や、人種、性、民族、年齢など、人の特徴を表現するために用いられる表現のもつ差別的響きに対して、読み手の側の意識がこれまでになく敏感になってきたことの反映である。例えば、90年代に入り出版され差別のない表現を大胆に取り入れ注目を浴びた *Random House Webster's College Dictionary* では、chairmanship, history, mankind, women と並んで chairpersonship, herstory,

humankind, womyn という表現までとりあげ、巻末には *Avoiding Intensive and Offensive Language* という付録もついている。²

まさに現代は、ことばの使い方により個人や集団が不快感をおぼえるという状況を避けるために、従来使用されてきたあらゆる表現が見直しをうけている時代といえよう。影響は話しことばよりも書きことばにいつそう顕著に表れている。その結果、出版社など色々な組織で差別防止のためのガイドラインが作られている。話しことばに具体的な影響が及ぶまでにははるかに長い時間を要するであろうが、David Crystal によれば、わずか一世代で言語変化の影響が書きことばの中にこれほどまで強く、またこれほどの規模で表れたことはかつてないという。³ 代名詞を例にとっても、ME の時代から60年代に至るまでその体系には殆ど変化がなかったのである。⁴ 本稿では、書きことばの中でも特にメディアの言語に与えている影響に注目した。そこで、新聞社や通信社のジャーナリストを対象にしたガイドブックを四種類とりあげ、差別表現がどのように取り扱われているか、言語の変化とメディアの言語政策との関わりという観点からながめてみることにしたい。資料として取りあげたガイドブックは、*The New York Times Manual of Style and Usage*⁵、*The Washington Post Deskbook on Style*⁶、*The Associated Press Stylebook and Libel Manual*⁷、*UPI Stylebook*⁸ である。本論にはいる前に、まず英語にはどのような差別表現がみられるのか概観したい。

差別表現として取り上げられることが最も多いのが、ジェンダー (gender) に関する表現である。David Crystal によれば、1970年代以降英語という言語に起きた最も重要な変化の一つがフェミニズム (feminism) に表れた男性と女性の地位に対する社会の姿勢の変化により引き起こされたものであり、その結果社会の批判が性差別 (sexism) を反映あるいは助長する言語表現に向けられるようになったという。⁹ 主なものとして、1) man という語を「人間」一般の意味で使う用法や、manpower や craftsman などのような man を含む複合語、2) 男性代名詞 he の総称的 (generic) 用法、3) 職業や地位、役割などに関して性の特定される表現を用いる、などがあげられる。これらの性差別表現に対しては、それぞれ中立的 (neutral) ・包括的 (inclusive) は代替表現が提案されている。たとえば chairman に対する代替表現としては chair, chairperson があげられる。けれども chairperson は女性の議長・司会者ばかりに使われ、かえって「女性」を連想させる結果を招いているという指摘もある。¹⁰ また一般に米国のマスメディアでは男性には chairman, 女性には chairwoman を使い分ける傾向がみられると言われているが、ワシントンポスト紙およびニューヨークタイムズ紙のスタイルブック¹¹では、男女いずれに対しても原則として chairman の使用をすすめている。このように中立的・包括的な代替表現については、必ずしも統一的な基準が確立しているわけではない。

性差別表現と並んでしばしば批判の対象とされるのは、人種 (race), 民族 (ethnicity), 国籍と市民権 (citizenship and nationality) などに関する表現である。まず「人種」という概念そのものについても科学者の間では見解の相違があり、その使用については注意を要する。また ethnic group というように ethnic (民族) という語を形容詞として使用する場合、ethnic という語が 'not of the mainstream' つまり「主流でない」という響きを与える可能性があり、やはり注意が必要である。さらに *Guidelines for Bias-Free Writing* によると ethnic は an ethnic (少数民族の人, 少数派), ethnics のように名詞として使用すると、相手をけなすひびきをもってくる。¹² Citizenship および nationality に関しては、前者が特定の国の構成員という法律上の地位を意味するのに対し、後者は文脈により citizenship を意味する場合と民族的起源を意味する場合があり、曖昧である。物を書く場合、政治的境界線の変化により地名 (或いは国民の名称) が変化する、あるいは歴史的に変化してきたケースでは注意が肝要である。このようにして、人種や民族を示す表現は明らかに差別的な意味になることが多い。また oriental や colored などの表現に表れているように、時代おくれであったり正確さを欠くため侮蔑的な表現となる場合もある。Hispanic も一般的には西半球に居住するスペイン語話者

全般を指す語であるが、Latino や Mexican American のようなより特定した表現も存在し、場合によってはその方が好まれる場合もありやはり注意が必要である。

第三に身体の障害 (Disabilities) と健康状態 (Medical Conditions) に関する表現がある。The New York Public Library Writer's Guide to Style and Usage によれば、これまで強い差別的響きのある crippled という表現を嫌って handicapped を選んできた人たちが、現在では通常 people with disabilities という表現を好むようになってきているという。¹³ 傷害自体を強調する(これを RHWCD の付録では Depersonalization of Persons with Disabilities or Illnesses と表現している。)のではなく、人物に力点を置いた表現を好むひとが多くなってきたというのがその理由のようだ。同様に disabled と physically challenged も使われている。表現方法に対する好みは集団や時代により変化する。また障害をもった人たちの行動を記述するために使用される表現そのものが、否定的な含意を伴いやすい。そのため例えば、A person is confined to a wheelchair. という表現を避け、A person uses a wheelchair. という表現を選択するのである。Guidelines では前者の confined to a wheelchair という表現を“language of victimization”と呼んでいる。そして障害を持つ人をいわば犠牲者として特長づけるこの表現は、無力で受け身な人に対する否定的な固定観念を強化しかねないとのべている。¹⁴ あるいはまた、blind の代わりに visually impaired を選び、deaf の代わりに hearing impaired を選択する集団や個人もある。ただしこの新しい代替表現は弱視や難聴などの部分的な障害も意味する可能性があり、それゆえ正確さを欠くという指摘もある。¹⁵ いずれにしても、これら婉曲的な代替表現は好まれる場合もあるが、中傷的的として批判的に取り上げられることも多い。

第四に性的志向 (Sexual Orientation) および家族関係に関する表現がある。性欲 (sexuality) を選択の問題だと考える人は殆どいない。しかし Guidelines によると sexual preference には選択するという含意があり¹⁶、しばしば同性 (same-sex) あるいは両性 (bisexual) 志向の人にのみ適用されるという不公正な扱いを受けているということである。¹⁷ Sexual orientation は異性 (heterosexual)、同性 (homosexual)、あるいは両性 (bisexual) いずれの志向にも適用される故に、現在では sexual preference より好まれる。一般的な用語は homosexual で、gay は男性の同性愛者に、lesbian は女性の同性愛者に使われるのが基準となっている。ただし gay については形容詞としての用法が好ましく、名詞としての用法には注意を要する。¹⁸ なかには WP のように形容詞のみの用法に限定しているスタイル・マニュアルもある。¹⁹ 同性愛関係にある相手の呼び方としては、companion が広く認められており²⁰、lover や partner は別の含意があるため回避される傾向にある。²¹

第五に年齢 (age) に関する表現がある。これもまた極めて神経質にならざるを得ない領域である。一般に男性も女性も18歳までは boy または girl と呼ばれるが、18歳を超えると man または woman とすべきである。Teenager あるいは adolescent も10代の子供たちを表現することばとして使われるが、いずれもしばしば若者たちの社会的な問題行動に言及する文脈で使われるために、否定的なイメージを伴いやすい。Juvenile も juvenile delinquency などの表現からの連想により、同様のことがいえる。また、elderly, aged, old などの代替表現であるが、回りくどい表現としてこれまでは明らかに評判のよくなかった senior citizen も現在では広く受け入れられるようになった。²² 以下、英語にみられる差別表現が欧米の主要な通信社、新聞社のスタイル・マニュアルでどのように取り上げられているか、

- (1) 人種, 民族, 国籍と市民権
- (2) 身体の障害と健康状態
- (3) 性的志向
- (4) 年齢

に関する表現を中心にみていきたい。²³

2. Race(人種), Ethnicity(民族), Citizenship and Nationality(国籍と市民権), Religion(宗教)

この問題については、例えば公民権運動に関するニュースや、マイノリティー集団の問題やその貢献、民族紛争のニュースなど、ニュースの核心と関わりのある場合をのぞいては言及しないと云うのが原則である。

2.1 America/American

Americaは「合衆国」だけでなく「南北両大陸」をも意味する。同様にAmericanも「合衆国民」とともに「南北両大陸の国々の国民」の意味でも使われる。Americanを「合衆国民」の意味で使用すべきかどうかについてはガイドラインは必ずしも統一されていない。ただ、WPのように「合衆国民」を「カナダ国民」や「南米の国の国民」と区別したいときには、AmericanではなくU. S. citizenを使用するようにすすめている場合もある。²⁴

2.2 Hispanic American/Hispanic

Hispanicの用法については唯一WPにつきのような記述がある。すなわち、メキシコ、中央アメリカ、それにスペイン語圏のカリブ海あるいは南アメリカ出身のアメリカ人は、Hispanic AmericanまたはHispanicsと呼ぶ。²⁵ Latinosとは呼ばない。²⁶ なお、プエルトリコ出身者はPuerto Ricansと呼ぶが、他のHispanicsと一くくりにされた場合にはHispanicsと呼ばれる場合もある。

2.3 Chicano/Chicana

メキシコ系合衆国市民あるいは在住者を意味する表現²⁷としてNYTとUPIに記述があるが、ともにその使用には慎重な姿勢がうかがえる。Mexican Americanを好む人にとっては軽蔑的な響きをもつ場合があるようだ。他方、メキシコ系の社会活動家の中にはこのChicanoという名称を自ら選択する人たちもおり、彼らに対しこの表現を使うのは支障ないとしている。

2.4 British/Briton

WPをのぞく3種類のスタイルブックに記述がある。Britishに含まれるのは通常イングランド人、スコットランド人、ウエールズ人である。NYTのように、一般的な文脈で北アイルランド人を含む場合もあるとしているマニュアルもある。²⁸ BritisherやBritの使用は避けるべきであるとされている。²⁹

2.5 English/Englishman/Englishwoman

NYTにのみ記述がある。「イングランド人」の意味で使う。「英国 (United Kingdom) 人」の意味では使わない。したがってBritishとは区別する。

2.6 Anglo-

必ず大文字で使用する。つぎに続く語が大文字で始まる場合Anglo-Saxon, Anglo-Catholic, 逆に後に続く語が小文字で始まる場合ハイフンを使わずにAnglophile, Anglophobe等の連結語を作る。二国間の関係の意味で形容詞的に使われる場合はAnglo-のかわりにEnglishまたはBritishを使い、British-French tradeあるいはEnglish-Irish cultural rivalryなどとする。

2.7 Asian, Asiatic

「アジア人」の意味ではAsianを使う。アジア人の中にはAsiaticを「アジア人」の意味で使うのは差別的だと考える人がいる。³⁰

2.8 Oriental

AP, UPI, NYTでは、「極東アジア地域あるいはそこにすむ住民」を意味する表現としてつかわれる、という以上の記述はない。ただWPだけが、形容詞としては人間に対して使うべきでないとしている。³¹

2.9 Far East

この表現を中国、日本、南北朝鮮、台湾、香港およびロシアの東の部分と限定的に使う立場の *AP* に対して、*NYT* は比較的緩やかに東南アジア地域なども含むとしている。なお *AP* では広く東南アジアまで含める場合は、*Far East and Southeast Asia* とすべきであるとしている。³²

2.10 China

AP、*UPI*、*NYT*、*WP* すべてに記述があり、その姿勢には殆ど差はみられない。すなわち、*China* はただ一つであり、*People's Republic of China* を指す。ふつう *China* を使い、*Communist China*、*mainland China*、*Red China* は直接引用する場合をのぞいて使用しないとされる。³³ また、台湾にある中華民国については通常 *Taiwan* を使う。なお、法的正確さが求められる場合には正式国名である *the Republic of China* を使用する。

2.11 Chinaman

「中国人」の意味で広く受け入れられているのは *Chinese* である。*AP*、*UPI* においては *Chinaman* は軽蔑的な用語であり、直接の引用の場合をのぞいて使用するべきではないとされる。³⁴

2.12 Sino-

唯一 *NYT* で言及がある。「中国」の意味で形容詞的接頭辞として使う用法は避けることとある。例えば、*Sino-Japanese*、*Sino-American*、*Sino-Russian* の代わりに *Chinese-Japanese*、*Chinese American*、*Chinese Russian* を使用するのが好ましいとある。³⁵ *Chinese* を使用した方が中日、中米、中露の二国間関係がより対等な関係としてとらえられるようだ。

2.13 Jap

NYT にのみ記述があり、*Japanese* の同意語として使わないこととされている。³⁶

2.14 Russo-

NYT によれば形容詞的接頭辞としてロシアあるいはソビエト連邦の意味で使う用法は避けるべきである。代わりに *Russian-Chinese* あるいは *Soviet-American* を使うのが好ましいとされている。理由は *Sino-* を避ける場合のそれと同じであろう。

2.15 WASP

White Anglo-Saxon Protestant の頭字語 (acronym) で、最も力を持つ中・上流の白人プロテスタント系アメリカ人の意味であるが、*NYT* によればその軽蔑的 (pejorative) な含みのゆえに使用には注意を要するとされる。³⁷

2.16 Ghetto

AP、*UPI*、*NYT* に記述がある。この語は非歴史的な新しい意味、すなわち少数集団や貧困層のすむ地域という意味では、あまり使いすぎないようにと過度の使用を戒めている。³⁸ これに代わりたいていの場合 *section*、*district*、*slum*、*area*、*quarter* の方がより正確であり、さらに場合によっては *Harlem*、*Watts* のように地名だけの方がニュアンスがうまく伝わる場合があるとしている。

2.17 Negro/Negress

AP、*UPI*、*NYT* に記述がある。*Negro* は現在でも多くの場合名詞あるいは形容詞として男性にも女性にも使うことができるが、もっとも一般的な表現は *black* であるとされている。³⁹ *Negress* は性差別 (sexism) になるので使わないこととされている。⁴⁰

2.18 Nigger

UPI にのみ記述がある。軽蔑的なことばであり、直接の引用あるいは記事にとってどうしても欠かせないほど重要である場合をのぞいて、使わないこととされている。⁴¹

2.19 Black

黒人 (Negro race) の意味で, Negro より標準的な表現としてもっとも一般的に使われる。⁴²

2.20 Colored

AP と *UPI* にとりあげられており記述内容は殆ど同じである。すなわち, 米国を含むある国々においては, この表現は差別的と考えられるので使用すべきでないと断言している。なお, アフリカでは国によっては「人種的な混血」を意味する場合がある。このような曖昧さがあるので, 代替表現として mixed racial ancestry 等の表現を使うようにするとよい。しかし, もし colored を使わざるを得ない場合は, 引用符で囲みその意味を説明すべきであるとしている。⁴³

2.21 African

AP にのみ記述がある。Black あるいは Negro の同義語ではない。⁴⁴

2.22 Afro-

NYT にのみ取りあげられている。前述の Sino-や Russo-と同じく, 二国間関係あるいはそれと同様の関係を指す場合は, 接頭辞としての使用は避ける。すなわち, Afro-American, Afro-Chinese の代わりに African-American, African-Chinese を使う。

2.23 African-American

注⁴¹にあるように特に米国の黒人により80年代末以降, black に代わって使われることが多くなったことばのようであるが, 4種のスタイルブックではわずかに *UPI* が black の項で取りあげているだけである。すなわち, この表現は直接の引用の場合をのぞいて使わないとしている。

2.24 Uncle Tom

AP と *UPI* で取りあげている。黒人に対する蔑称で, 周知のごとくストウの小説 *Uncle Tom's Cabin* の主人公からとられた表現である。*AP*, *UPI* いずれも個人に当てはめて使うことは戒めている。それはこのことばに, 金銭や特権や政治的影響力を手に入れるために自らの信念を売ってしまうという, 対象とされた人物の名誉を損ねかねないニュアンスが潜んでいるからである。⁴⁵

2.25 Native

NYT がこの語を取りあげている。先住民 (native) に対する言及はしばしば軽蔑的 (condescending) で無礼 (offensive) になりがちであり, そのような時には言及は避けるべきである。例外が一つある。Alaska native (s) である。先住民のアレウト族 (Aleuts), エスキモー, それにアラスカインディアンの人たちが自分自身のことを話す場合, 誇りをもってこの表現を使うのである。他の地域でも先住民が非軽蔑的な意味合いでこの語を使う場合, 同様の例外が当てはまる。⁴⁶

2.26 Native American

UPI がこの表現を取りあげている。米国で生まれた人はすべて native American と呼ぶことができる。⁴⁷したがって, 北米に白人が移り住む以前に生活していた民族という狭い意味で使用することは, 避けるべきであるとしている。

2.27 Indian

WP によると, この語は西半球の先住民やその文化を指す意味の総称である。アメリカのインディアンの意味で使う場合, 当該のグループあるいは組織が Native American を名称として採用している場合はそれを使うこととしている。

2.28 American Indian

UPI では, American Indian はたしかに native American であるが, 同時に理論的には合衆国で生まれた人は皆 native American であるとも指摘して, その使用について注意を促している。⁴⁸なお, *NYT* ではつぎのような記述がみられる。American Indian に関するニュース記事の中で

は, wampum(北米インディアンが通貨や装飾に用いた貝殻玉), warpath(戦いにいく路), powwow(祈祷会), tepee(獣皮製住居), brave(戦士), squaw(インディアンの妻あるいは女)などの北米インディアンの生活・文化・歴史に関する語は文脈次第で, さらにまた firewater(WNWDによると北米インディアン ojibwa 族の ishkodewaaboo=ardent spirits からの calque すなわち翻訳借用語句で現在ではユーモラスな響きをもつとある。)等の場合は明白に, 中傷のかつ無礼な表現となる可能性がある, わずかでもそれが予測される場合はそのような文脈あるいは表現は避けるべきであるとされている。

2.29 Alaska native(s)

NYT が上記 native の項でも取りあげているように, アレウト族, エスキモー, アラスカ・インディアンの人たちは自分自身の呼称として誇りをもってこの表現を使っている。したがってこの場合他の文脈で native がもちうる侮蔑的な意味合いはない。

2.30 Eskimo(s)

AP, *UPI* で用法の解説がある。(*NYT* では解説はなく, 見出し語として取りあげてあるのみ。)

このことばは Inuit (または Innuit) を好む一部の (とくにカナダの) 人たちにとっては抵抗感を与えるので, 使い分けの必要性が示唆されている。⁴⁹

人種や民族に関係した侮蔑的表現の中で, 髪の色や体つきなどに関係したのも若干取りあげてある。

2.31 Redneck

UPI によると元来農作業で日焼けした農民の特長を表現したものだが, とくに南部の貧しい農民に対して使われるためしばしば軽蔑的な意味が含まれるという。⁵⁰

2.32 Redhead/redheaded/red-haired

AP, *UPI* が取りあげている。どの表現も髪の色を赤い人物に使って構わないとされる。ただし *NYT* は赤以外の髪の色に対しては -haired とハイフンを付けた形, たとえば brown-haired, fair-haired が望ましいとしている。

2.33 定型表現 (Set Expressions)

定型化した慣用表現の中にも人種あるいは民族的偏見にもとづいたものがみられる。*WP* でいくつか取りあげている。⁵¹

Hard-drinking Irishman, tempestuous Latins, Chinese fire drill (*LDCE* によると米語のくだけた用法で, 「ひどく混乱した状況」の意)

3. 身体的障害 (Disabilities) と健康状況 (Medical Conditions)

この点に関する記述は前項のそれと比較するとそれほど多くはない。

3.1 Disabled

直接項目に取りあげているのは *WP* であるが, *UPI* も別の項目 (cripple) の中でふれている。また, *AP* も1992年版には記述がないが, 1998年の改訂版では disabled, handicapped, impaired という見出しで記述が加えられており, 大きな変化である。それによると, 一般的にいつて終生何らかの身体的障害を持っている人は handicapped と呼ばれるのを嫌うという。したがって代替表現として disabled を使うか, あるいは障害の性質を特定する表現を使うようにすすめている。例えば障害によって車椅子の使用が必要になった場合, confined to a wheelchair の代わり

に *uses a wheelchair* を使うとともに, *She uses a wheelchair because she is disabled by muscular dystrophy.* のようにその理由を具体的に付け加えるべきであるとする。 *She is confined to a wheelchair because she is handicapped by muscular dystrophy.* のような表現は容認できないという。

ただし *handicapped* については、一時的障害を表現する語としては完全に容認されるとある。例えば *He was handicapped by a broken collarbone.* という表現は問題はない。⁵²

3.2 Cripple/crippled

UPI と *NYT* に少し記述がみられる。いずれも一時的なものでなく終生障害をかかえている人に対して、この表現を使うことは避けるべきであるとの立場をとっている。前述の *disabled* 等の表現を使うことが一つの回避策になりうるが、単なる語の入れ替えだけではうまくいかない場合もある。その場合は、表現を変える必要があるとしている。また特に *UPI* は *a person who has epilepsy* と表現されることに対しては抵抗は示さないが、*an epileptic* という表現に対しては病名などによっていわばレッテルを貼られるというとらえかたをして、強い抵抗感を示す人がいると注意をうながしている。⁵³

3.3 Mute

NYT では障害をもっている人に対して、この語の使用は避けるべきであるとしている。他方 *AP98* は若干ニュアンスが異なる。障害としてまったくしゃべることのできない人に対してはこの語を使用し、困難ではあるが何とかしゃべることのできる場合は *speech impaired* という表現をすすめている。

3.4 Deaf and dumb, deaf-mute

UPI, *NYT*, *AP98* ではいずれも正確さを欠く表現であり、かつ残酷な響きをもつので避けるべきであるとしている。⁵⁴ なお *AP98* では完全に聴力のない人に対して *deaf* を使い、部分的に聴力のある人に対する表現としては *partial hearing loss* あるいは *partially deaf* が好ましいとしている。

3.5 Insane asylum

NYT にのみ記述がある。不愉快な響き“*ugly ring*”があるので、直接の引用あるいはある歴史的な文脈を除いて避けるべきであると明記している。代替表現として *mental hospital* を提案している。⁵⁵

3.6 Junkie

NYT は引用文中あるいは我々が決して厳しい判断を下しているのではないことが明白な特別な文脈を除いて、この表現を麻薬中毒患者あるいは麻薬常用者に対して使用するべきではないとしている。⁵⁶

4. 性的志向 (Sexual Orientation), 家族関係 (Family Relationships)

4.1 homosexual, gay, lesbian

homosexual と *gay* の使い分けについては、*UPI* と *NYT*, *WP* と *AP* とでは考え方に少し違いがみられる。同性愛者に対する表現として *UPI* と *NYT* は *gay* より *homosexual* が好ましいとする、あるいは *gay* の使用には慎重な姿勢をとっているが、*WP* と *AP* では *gay* も同義語として許容する姿勢がうかがえる。*Gay* について *UPI* と *NYT* は、直接の引用あるいは組織の名称等に使用されている場合を除いて使わないようにすすめている。とくに *UPI* によると、*gay* にはもともと「陽気な、楽しい」という意味があり、この伝統的な意味を守る立場から *homosex-*

ual の同義語として使うことを禁止しているスタイルブックもあると説明している。⁵⁷ さらに WP では gay を使わざるを得ない場合でも形容詞として使い名詞で使用しないこと、女性の同性愛者に対しては lesbian を使ってもよいこと、また男性の同性愛者と女性のそれを並べる場合は, gays and lesbians としないでその代わり gay men and gay women が好ましいと示唆している。⁵⁸ いずれにしても, gay か homosexual を区別する必要がある時でも, 自分の性的志向がわからさまになることを好まない人物のプライバシーを侵害する事のないよう注意を喚起している。

4.2 Adopted, adoptive

WP によれば, 例えば養子縁組の合法性に疑問がもたれている場合, あるいは近親相姦の事例などのように, 養子か否かの情報が記事の核心に明らかに関わりをもつ場合を除いて, この表現は使わないようにすべきである。具体的には, John Smith と Mary Smith の夫婦が養子をとった場合, その子は夫婦の子供となるのであって他の場合と何の違もない。養子縁組をした夫婦も子供も, もし他の普通の家族との間に不必要な区別がなされれば侮辱的だと受け取るであろう。⁵⁹

5. 年齢 (age)

「年齢」も扱ひ方次第で差別的用法になりうる (ageism), 極めてデリケートな心遣いを必要とする領域である。

5.1 Age

WP は一般的な基準として, 人物の年齢は特にそれを強調する必要がない限り, 通常名前の後に配置すべきであるとして次の対照的な例をあげている。ごく普通の場合 John Smith, 35, 一方100歳を超えた老人であるということを特に強調したい場合は, the 103-year-old John Smith とする。さらに WP は, 記事の内容に関連性がある場合年齢は取りあげてもよいが, その場合でもとくに elderly や middle-aged のような形容詞には注意を払うように警告している。若いレポーターが, 自分たちを認めてくれない先輩に対して, 特にこの表現を使う傾向がみられると注意を喚起しているのはおもしろい。⁶⁰

5.2 Boy, girl

AP, UPI, NYT によれば男性は18歳を超えた場合 man あるいは young man と呼ぶべきであり boy ではない, 同様に女性も18歳を超えると woman あるいは young woman とすべきであって girl とはしない, としている。⁶¹

5.3 Elderly

AP, UPI に少し詳しい記述がある。それによると, まず elderly も senior citizen も共にその使用は控えめにするをすすめている。⁶² さらにこのいずれも65歳以下の人に対しては使わないこと, また65歳を超えた人に対して使う場合でも不注意な使い方をしないよう戒めている。適切な表現として, 次のような一般的な表現を取りあげている。Concern for the elderly, a home for the elderly。また, ある人物の身体的能力が衰えたことを示すには, 次のような具体的な描写を使うのがよいとしている。すなわち, His memory fades. あるいは She walks with a cane. 等。

5.4 Senior citizen

これは明らかな euphemism (婉曲表現) である。AP, UPI, NYT では前項の elderly 同様, できる限りその使用は控えるべきであるとしている。⁶³ ことに UPI はこれを恩着せがましい表現と受け取る人が多いことを指摘している。

6. 結 び

本稿では、現代英語にみられる主要な差別表現が、メディアの言語政策の立案者にどのように取り扱われているかを検証した。その際、差別表現を(1)人種、民族などに関するもの、(2)身体の障害、健康状態に関するもの、(3)性的志向などに関するもの、(4)年齢に関するもの、の4点に分類し、コーパスはAP通信社、UPI通信社、ニューヨークタイムズ紙、ワシントンポスト紙という欧米の主要な通信社および新聞社のスタイルマニュアルに限定した。

もちろんスタイルマニュアルが実際に起こりうるすべての差別表現を網羅しているわけではない。本稿でしばしば引用した *Guidelines for Bias-Free Writing* などのスタイルブックには様々な差別表現が取りあげてあるが、スタイルマニュアルではその中で編集者の立場として最も重要だと考えるパターンが取りあげてあるにすぎない。しかしながらスタイルマニュアルに示された言語表現に関する方針が編集者や記者などに対しても影響力は、単にそこで取りあげられている語法や表現にとどまらず、広く編集者らの言語意識全般にまで影響力をもちうることは Fasold らによって指摘されている。⁶⁴

4種類のコーパスの内APとUPIは、1997年に共同で joint stylebook を編集していたこともあり、その記述内容は極めて近いように思われる。一方、NYTとWPはAPやUPIと比べても、記述内容に少しばかり姿勢の違いがみられる場合もある。しかし、いずれのマニュアルも差別表現に関する基本的な方針に関してはメディアとしてやはり共通する点が多い。まず第一に、記事の内容と本質的な関わりがあると判断される場合にのみ、ある特定の表現を使用し、関わりがないと判断される場合は使用しない。次に、記事の核心部分と関連があり使用しなければならないと判断される場合でも、立場により様々な議論のあるいくつかの表現の中から、記述の対象とされる個人や集団の選択する表現を使用するようつとめることが重要とされる。たとえば Alaska native の場合のように通常差別的と理解される表現でも、当の先住民自身が誇りをもって使用している場合などがそうである。さらに、ことばは変化するものであるから、時代遅れにならないような注意も必要とされる。すなわち特定の表現を選択する際、それが最も広く受け入れられている表現であるかどうか、重要な判断の基準となる。最後に、年齢に関する表現や身体の障害に関する表現などの場合にみられるように、次々に生まれる差別回避の手段としての新しい代替表現は、婉曲的であるが故に逆に偏見を生み出す、あるいは正確さを欠くという矛盾もかかえている。メディアとしては不特定多数の人を読者として対象としている性格上、このような動向に対しては一定の距離を置く姿勢もはっきりみることができたように思う。

1 'marked by or adhering to a typically progressive orthodoxy on issues involving esp. race, gender, sexual affinity, or ecology' (*Random House Webster's College Dictionary*, New York: Random House, 1999. 以下 *RHWCD* と略す。) 最近出版された『時事英語情報辞典』(研究社出版, 1997) では、単に「政治的に公正な」ではなく、人種差別・性的差別となりそうなことばに対して潔癖なまでに正しい表現の仕方を求める態度、と説明されている。また、Tom McArthur 編 *The Oxford Companion to the English Language* (Oxford University Press, 1992. 以下 *OCEL* と略す。)のなかでは、この PC という表現は、とくにアメリカの保守的なジャーナリストが、つぎの3点に対し公に異議を唱える人たちの考え方を皮肉って言う場合に使われるとされている。1) 性 (sexist), 人種 (racist), 能力 (ableist), 年齢 (ageist), 身長 (heightist)

などの面で陰に陽に差別的だと考えられる表現 2) 一般的に黒人は白人より能力が劣るなどと言った固定観念 (stereotyping) 3) 女性や身体障害のある人や同性愛者などをねたにして生み出された不適切な笑い。

- 2 *RHWCD*, pp.1531-33.
- 3 David Crystal, *The Cambridge Encyclopedia of the English Language* (Cambridge: Cambridge University Press, 1995), pp.369 参照。
- 4 David Crystal, pp.369 参照。
- 5 Lewis Jordan (ed.), *The New York Times Manual of Style and Usage* (New York: Times Books, 1976. 以下, *NYT* と略す。)
- 6 Thomas W Lippman(ed.), *The Washington Post Deskbook on Style*, 2nd ed. (New York: McGraw-Hill Publishing Company, 1989. 以下, *WP* と略す。)
- 7 Norm Goldstein (ed.), *The Associated Press Stylebook and Libel Manual* (Massachusetts: Addison-Wesley Publishing Company Inc., 1992. 以下, *AP* と略す。) なお, これは最近改訂版が出されたばかりである。Norm Goldstein (ed.), *The Associated Press Stylebook and Libel Manual*, Fully Updated and Revised (Reading, Massachusetts: Perseus Books, 1998. 以下, *AP98* と略す。)
- 8 *UPI Stylebook*, 3rd ed. (Lincolnwood: National Textbook Company, 1992. 以下, *UPI* と略す。)
- 9 David Crystal, *The English Language* (Penguin Books, 1988), pp.255-57 参照。
- 10 Deborah Cameron, *Feminism and Linguistic Theory* (London: Macmillan, 1985), p.95 参照。
- 11 それぞれ, *WP* および *NYT*。
- 12 Marilyn Schwarz and the Task Force on Bias-Free Language of the Association of American University Press, *Guidelines for Bias-Free Writing* (Bloomington and Indianapolis: Indiana University Press, 1995), p.44. 以下, *Guidelines* と略す。
- 13 *The New York Public Library Writer's Guide to Style and Usage* (New York: HarperCollins Publishers, 1994), p.21. 以下, *NYPL* と略す。
- 14 *Guidelines*, p.76. なお, 同書は他の例としてつぎの表現をあげている。A victim of MS, a person stricken with polio, suffering from epilepsy, afflicted with mental illness, wheelchair-bound.
- 15 *Guidelines*, p.77-78 参照。
- 16 同性愛については, 生物学的根拠があるという研究結果も報告されているらしい。(NYPL, p.20 参照。)
- 17 *Guidelines*, p.82 参照。
- 18 形容詞から派生してできた社会集団の名称の場合と同様, 名詞としての用法(例 There were two gays on the panel.) は単純化の余り相手に不快感を与える場合があり, とくに注意が必要とされる。*Guidelines*, p.83 参照。
- 19 *WP*, p.127 参照。
- 20 ほかに domestic companion, longtime companion などもある。
- 21 Kenneth G. Wilson, *The Columbia Guide to Standard American English* (New York: MJF Books, 1993. 以下, *Columbia Guide* と略す。)によると, lover は今日では殆ど“an extra-marital sexual partner”を意味し, 性的な関係ばかり強調される傾向にあるようだ。また, partner についてはビジネスの上での関係というニュアンスがあり, 文脈によっては適当でない場合があると思われる。

- 22 an older person, usually over the age of 60 or 65, esp. one who is retired. *Random House Webster's Dictionary of American English* (New York: Random House, 1997. 以下, *RHWDAE* と略す。)しかし, 年齢の高い人であっても自分たちが政治, 社会, 経済の面で力となっているとの自負のある人たちに対しては, むしろ old people, the aged, retirees, seniors pensioners 等の表現を使った方が適当な場合もある。 *Columbia Guide*, p.387 参照。
- 23 性差別表現については, 別にその内容にふさわしい発表の場を与えられたので, それだけを単独の論考として発表した。「ことばの変化とエディター-メディアにおける性差別表現」『女性文化研究センター年報』第13集 (比治山大学女性文化研究センター) を参照されたい。
- 24 *WP*, p.212 参照。なお, America を「合衆国」の意味で使用したり, American policy あるいは American economy のように U. S. で置き換えられる場合における American の使用を ethnocentric であるという批判もある。 *The McGraw-Hill Style Manual: A Concise Guide for Writers and Editors* (New York: McGraw-Hill, 1983), pp.272-84 参照。
- 25 *WP*, p.178 参照。なお, Mexican American や Latin American の方が好まれる場合があるようだ。
- 26 *Webster's New World Dictionary of American English*, 3rd College Ed. (New York: Prentice Hall, 1994. 以下, *WNWD* と略す。)によると Latino には 1) Latin American 2) Hispanic の二つの意味があるという。また *RHWDAE* では Latino=HISPANIC と記述されている。これから分かるように Latino (女性形は Latina) にはアメリカ合衆国以南のメキシコを含むすべての中南米諸国出身者を意味する場合と, メキシコをのぞく中南米出身者という意味で使われる場合があり, 用法は必ずしも定まっていないようだ。
- 27 *Columbia Guide* (p.94) によれば, Chicano の使用例は1950年代に遡り, Mexican を意味するスペイン語 Mexicano の異形の一つとして Mexican-American が使い始めたようだ。
- 28 *Guidelines* (p.56) などでは British に北アイルランド人を含めるのは適切でないとしているように, スタイルブックによって立場は一様ではない。
- 29 *Columbia Guide* (p.76) によると Britisher はアメリカ語法であるとされているが, 実はこの語は古風なイギリス英語でもある。(Judy Pearsall, *The New Oxford Dictionary of English*, Oxford: Clarendon Press, 1998 参照。以下, *NODE* と略す。)また, Michael Swan はその著 *Practical English Usage* のなかで, 「イギリス人は通常この名詞 (Britisher, Briton) は使わない。Britisher は主に英国の新聞のヘッドラインで使われる。」と述べ, さらにイギリス人はふつう自分自身を Welshman, Scots, Irishmen, または Englishmen と表現するのを好み, 国籍を示す統一的な名詞はもちあわせていないと解説している。(Michael Swan, *Practical English Usage*, Oxford: Oxford University Press, 1980, p.121 参照。)
- 30 *NODE* によると, Asian はイギリスではインド亜大陸出身者 (またはその子孫) を指すのに対して, 北米では極東出身者を意味するという。また Asiatic は *RHWCD* にあるようにふつうは offensive とされているが, 生物学・人類学といった科学の分野では標準的な語とされているようだ。
- 31 *Guidelines* (p.67) によると, 名詞としての Oriental は極めて差別的な表現と理解される場合があり, Asian あるいはより特定した表現 Chinese などの使用をすすめている。また, *NODE* によると Oriental が差別的ととられるのは, この語が極東アジアにすむ人々やその生活習慣が, わかりにくくて異国的だという固定観念を連想させるからであるとしている。
- 32 Far East はヨーロッパ中心的 (Eurocentric) な発想から生まれた表現であり, East Asia が好まれると言う記述もある。(*Guidelines*, p.59 参照。)
- 33 *NYPL* によると, Red China とか Communist China の様な表現は書き手の側の価値判断を反映

- した表現なので、使用を差し控えるべきであるとしている。(NYPL, p.22 参照。)
- 34 *Columbia Guide* によると、アメリカ英語において Chinaman は民族への中傷でありタブー表現とされる。このタブー表現としてのことばの響きが Chinaman's chance といった熟語に反映されているが、この種の定型表現については別にこの節の最後でまとめて取り上げている。この他 Chink という同様に極めて差別的な表現もある。(RHWCD 参照。)
- 35 アメリカの記者が使う場合 Sino-の方が手軽な印象を与えたため、1930年代にはよく使われたらしい。*Columbia Guide* 参照。
- 36 *NODE* は名詞としても形容詞としても offensive であるとしている。また *Columbia Guide* では ethnic slur (民族に対する中傷) であるゆえに taboo 表現であるともいっている。この他、Nipponese の短縮化されたスラングで Nip という語もあり、*Random House Webster's Unabridged Dictionary* (New York: Random House, 1998. 以下、RHWUD と略す。)では disparaging and offensive とされている。
- 37 *Oxford English Dictionary* (2nd ed. 以下、OED と略す。)によると、しばしば derogatory (軽蔑的)なニュアンスをもつと説明されている。また *NODE* によると1960年代に生まれた頭字語という。
- 38 OED によると ghetto はもともとイタリア語で、17世紀初めとくにイタリアでユダヤ人がその外にでることを許されていなかった地域を意味していた。したがってまた *Guidelines* にあるようにこの語には、貧困、犯罪、荒廃、迫害という否定的なイメージがつきまわっているという。
- 39 *Longman Dictionary of Contemporary English*, 3rd ed., 1995 (以下、LDCE と略す。)によると、アフリカ系の人とは通常 black と呼ばれることを好むという。また特に米国では African-American (ただし、UPI では直接の引用の場合をのぞいてこの語の使用をすすめていない。)、英国では Afro-Caribbean がしばしば使われるようだ。
- 40 LDCE によると Negress は古風 (old-fashioned) な表現で、現在では通常不快感を与える (offensive) と明記されている。
- 41 *NODE* によると nigger はもともと17世紀に黒人を指す形容詞として使われ始め、以来強い差別的な意味を伴ってきた。今日、最も強い人種差別的表現の一つであるという。
- 42 上記注(39)にあるとおり、米国では African-American が好まれるようになってきたが、英国では black がもっとも一般的な表現である。*NODE* によるとアフリカ系の人を指す black の用法は少なくとも14世紀にまでさかのぼるという。60年代に入り公民権運動やブラック・パワーの高まりとともに、黒人たちが自分たちの人種的な誇りを示すことばとして black を使い始めるようになった。さらに RHWDAE によれば、近く80年代終わりになって米国の黒人コミュニティの指導者が、自分たち自身を指すことばとして BLACK の代わりに AFRICAN-AMERICAN という表現を積極的に使うようになったという。なお、Black もその対照語である White もいずれも黒人種あるいは白人種を意味する表現として定着したため、その意味で使われる場合大文字化されることが多いという。*The Chicago Manual of Style*, 14th ed. (Chicago and London: The Chicago University Press, 1993), p.247 参照。
- 43 *Longman Guide to English Usage* では、代替表現として中立的な nonwhite を提案している。Sidney Greenbaum, Janet Whitcut, *Longman Guide to English Usage* (Harlow: Longman, 1988), pp.88-89 参照。なお NYPL (p.19) によると colored は大文字化して使われることも多いようだ。
- 44 アフリカ人 (Africans) がすべて黒人 (black) とは限らない。
- 45 *The Underground Dictionary* によると、白人に対して受け身で弁解がましい態度をとる卑屈

- な黒人を指すという。Eugene E. Landy, *The Underground Dictionary*, Simon and Schuster, 1971.
- 46 *Webster's Dictionary of English Usage* には native のもつ差別性は植民地主義に対する反発が原因とみられるという指摘がある。また非軽蔑的な意味で使用される場合、しばしば大文字で使われると説明している。*Webster's Dictionary of English Usage*, Springfield: Merriam-Webster Inc., 1989.
- 47 *RHWUD* によると、インディアンの意味の場合 native American と区別するため大文字化して Native American としているようだ。*NODE* によると、Native American は現在米国で広く受け入れられている表現である。50年代に最初に記録され70年代に入って目立つようになった表現で、着実に American Indian に取って代わりつつあるという。その理由の一つは、“Indian”はコロンブスがアメリカ大陸到着時にインド東海岸に到着したと勘違いしていた事実を想起させるという点で正確さと敬意を欠く表現であるということ、二つ目はアメリカ西部を扱った物語にみられるカウボーイとインディアンの固定化されたイメージを避けたいということのようである。しかし、アメリカインディアン自身が通常あまり無礼だと受け止めていないということもあって、American Indian も依然としてよく使われているという。
- 48 *Guidelines* (pp.53-54) 等ではこのような総称的表現 (umbrella term) でなくて、できる限り個別の部族名を使うことをすすめている。さらに、*NYT* が取りあげている定型化された表現だけでなく、インディアンの皮膚の色に関する表現 (例えば red, redskin など) も極めて無礼な表現であることも指摘している。
- 49 カナダの先住民族の一般的な名称である Eskimo の語源は、*OCEL* によれば Algonquian 語で ‘raw-meat eater’ (生肉を食う人) という意味をもっているために侮蔑的と考えられたという。その結果近年部族の名称そのものである Inuit が標準的な呼称になってきたようであるが、*NODE* によると Eskimo はとくに人類学や考古学の領域においては、依然として広く用いられる表現であるという。
- 50 *RHWDAE* によると、これは「くだけた」用法で、とくに南部の教育のない白人農民を意味する中傷的な表現という。また、地域を特定する意味をもっているために、*NODE* によれば政治的反発を招く表現 (politically reactionary) ともされる。
- 51 その他にもたとえば *NYPL* では welshing on a bet (「賭け金をごまかす」の意でウェールズ人にとってはきわめて侮辱的)、hot-blooded Latin (*WP* で取りあげている tempestuous Latins と同じ)、coolie wages (*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, 5th ed., 1995 によると、特別な技術もなく、訓練も受けていないアジアの労働者の低賃金を揶揄した表現で、offensive な taboo 語と明記してある。) などの類似表現が指摘してある。
- 52 *Guidelines* (p.74) は、handicapped の代替表現として physically (or mentally) different, differently abled, physically challenged, exceptional, special または special needs 等が提案されてきたが、現在最も広く支持を得ているのが disabled だという。
- 53 もともと病名 epilepsy の形容詞形が epileptic であるが、*UPI* が取りあげている例のように形容詞の epileptic を名詞として使った場合、「一個の人間」が「一つの病氣」にいわば格下げされてしまったという印象を与え、非常に侮辱的な響きをもちかねない。したがって、「一個の人間」という概念を強調する表現として a person with~あるいは a person who has~という形式が求められるようだ。ガイドラインの多くは、表現として可能な限り「人」を「障害」の前に配置するのが望ましいことを強調している。
- 54 *LDCE* では mute の第2番目の語義として unable to speak をあげ old-fashioned としている。同

辞書はまた *dumb* の語義の記述において “someone who is unable to speak” を指す語で “offensive” と受けとられる場合があると説明し、さらにこの使い方は専門用語ではないとしている。同じ理由で *RHWCD* も usage note 欄で *dumb* よりも *mute* のほうが一般的に容認されているとしているが、*deaf-and-dumb* や *deaf-mute* の代わりに好まれるのは「話せない」という事実への言及を含まない *deaf* だとしている。

- 55 *Collins Cobuild English Usage* (London: HarperCollins Publishers, 1992. 以下, *CCEU* と略す。)によると、形容詞として *mad* あるいは *insane* は侮辱的な含みをもつので、現在では *mentally ill* が好まれると説明されている。
- 56 *WNWD* によるとこの語は米語法でスラングと記述されている。また *NODE* によると起源は1920年代に遡るようだ。この語には例えば a TV junkie などのように、「何かの行為や食べ物に熱中した人」という比喩の意味もある。
- 57 *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, 5th ed. (Oxford: Oxford University Press, 1995) は *gay* の第3義として “happy and full of fun: cheerful” と説明し、語法について古くなりつつある (“becoming dated”) と解説している。
- 58 *Guidelines* (pp. 82-84) によると *gay* は現在では主として男性の同性愛者を意味する表現として広く受け入れられている(したがって, *gay* and *lesbian* といった並列表現がよくみられる)。また書き手の多くも *homosexual* という語のもつ病理学上の否定的意味合い、あるいは犯罪行為と結びついた否定的意味合いのためにこの語の使用を避けているが、同性愛者の中にはいまでも *homosexual man/homosexual woman* を好む人たちもいるし、また *gay* と *homosexual* の扱いに区別をしない人もいるという。
- 59 *Columbia Guide* (p. 14) によると養子縁組を結んだ場合、標準英語では通常、子に対しては an adopted child, 親に対しては her adoptive parents と使い分けがあるという。しかし, *OED* によれば adopted は特に子について使われるが, adoptive は元々親にも子にも使われていることが分かる。
- 60 *NYPL* (p. 21) も middle-aged という表現の使用に関して次のように指摘している。「若い書き手の方々は middle-aged という表現の使用に際しては注意が肝要だ。特に万年青年ともいべき団塊の世代が中年世代に達しつつあるいま。」
- 61 boy と girl の適用される年齢域については異なった見解もある。すなわちスタイルマニュアルによっては boy と girl はだいたい13~4歳までで、それより上19歳までは, youth あるいは young person ないし young man または young woman を使った方がよいとしている場合もある。(Guidelines, p. 87 参照。)
- 62 現在では elder あるいは elderly person よりも older person が一般的に好まれているようだ。
- 63 *Columbia Guide* (p. 387) によると、65歳以上の人を指すこの婉曲表現を嫌う人もいるが、現在特にジャーナリズムの分野では標準的な表現となっているという。また *OED* では、もともと米語で、特に退職者を指す語であり、「高齢の年金生活者」を意味する婉曲表現としてメディアや公の情報伝達場で頻繁に使用されると解説している。
- 64 R. Fasold, H. Yamada, D. Robinson & S. Barish, “The language-planning effect of newspaper editorial policy: gender differences in *The Washington Post*,” in *Language in Society*, 19, 1990, pp. 521-39 参照。

(言語文化学科 英語文化専攻)

(1999. 10. 29. 受理)